

特別対談

大槻奈那

ピクテ・ジャパン
シニアフェロー

山本明弘

広島市信用組合
理事長

「ゼロゼロ融資の返済に
金融機関は
どう取り組むべきか」

ゼロゼロ融資が積み上がったいま、返済開始に向けて金融機関はどのようなことに取り組むべきか、識者の対談を通じてお届けする。

銀行・金融業界のアナリストとして活動し続けてきたピクテ・ジャパンのシニアフェロー・大槻奈那氏には日本や業界全体のマクロ的な観点から、リスクを取って中小企業に融資する姿勢で知られる広島市信用組合理事長の山本明弘氏には、現場のミクロ的な観点から、それぞれ語っていただいた（敬称略）。

過去の危機になかった
大きな企業間格差

まず、ゼロゼロ融資の提供開始から3年目となる中小企業の状況をどう見ているのか、それぞれお聞かせください。

大槻 企業による差が広がっていると感じています。ゼロゼロ融資で企業の負債ばかり増えたと思われがちですが、統計で企業全体の数値を見ると預金も過去最高水準に伸びており、一部の企業が借入金を滞留させている状態です。一方で法人企業統計では飲食や宿泊といった業種や一部の地域が厳しく、良いところとの差が開いています。

山本 まさしく、コロナ以降は格差が広がっています。良いところは良い。借入金もブルーしています。国の予算が付く一部の業種や半導体産業は、工場を増設して新しい設備でいっぱいです。地元の中小造船業も仕事が止まったことはありません。

ゼロゼロ融資
返済に挑む!

ヒアリング・運転資金算出・
借換え・条件変更をマスターする

コロナ禍以来の経済対策として注ぎ込まれた実質無利子・無担保の制度融資「ゼロゼロ融資」が、多くの事業者で据置期間が終了し、いよいよ返済開始を迎えようとしている。地域金融機関による支援への期待感は日増しに高まっている状況だ。
そこで今号では、返済開始に向けての支援方法を集。取引先へのヒアリングから、運転資金の算出法、借換えや条件変更、そして中小企業活性化協議会など外部支援機関との連携の進め方に至るまで、徹底的に解説する。